

天竜川総合土砂管理計画検討委員会【第7回上流部会】

議事要旨

日時：令和4年5月17日（火）10:00～12:00

場所：天竜川上流河川事務所、WEB会議

1. 開会
2. 開会あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 議事

4.1 規約改正について

- ・規約改正について了承された

4.2 第6回上流部会の指摘事項と対応

- ・土砂収支図に諏訪湖からの流入土砂量がゼロということを明記した方がよい。
- ・上流、下流で分けて検討してきたことは重要な意味を持っている。第二版（案）で掲載する土砂収支図のように簡略化せず、上流部会で検討してきた内容は資料として残しておくことが重要。

4.3 天竜川流砂系総合土砂管理計画【第二版】（案）の概要

- ・流砂系一貫の土砂収支図は全体を理解するために必要である。全体を把握するために必要な情報が記載されていればよい。
- ・ダムや河道の堆砂は重要な課題であるため、土砂収支図には通過土砂量、搬出土砂量以外に、堆積土砂量も入れるとよい。

4.4 モニタリング計画の実施方法

- ・上流部会で検討した内容でモニタリングを実施する必要がある。詳細な内容については上流域のモニタリング計画として残すことが必要。
- ・総合土砂管理計画での環境の項目の位置づけを整理し、モニタリングが具体的にどういふところに係わっているかを明確にすることが必要。
- ・土砂バイパスなど土砂還元等が先行して実施されているため、土砂が流れることがどう影響・効果を与えるのかについてモニタリング結果をしっかりとまとめることが重要。土砂が流れることで樹林化が抑制されるか、環境的にも改善される等がしっかり見えてくれば下流の事業の推進にもつながる。

- ・どの粒径集団を対象としたモニタリングかを明確化するとよい。また、土砂収支図の粒径集団IVがゼロとなっているため、小数点以下を含め、土砂の移動の有無を明記すること。
- ・流下能力のネックとなるところを調査するのは良いが、モニタリングのツールやコストの観点だけ示されているため、具体的に目的に合わせて何をしたいかを示しておくこと。
p.30の河床変動計算結果により、粒径材料の変化、河床変動を想定していることを踏まえて、モニタリングで把握すべきことを明確にして調査・評価を行うことが重要。

5. 閉会あいさつ